

メッセージアウトライン 創世記8:1～12「オリーブの若葉」

[1-2]「神は、ノアと、彼とともに箱舟の中にいた、すべての獣およびすべての家畜を覚えておられた。神は地の上に風を吹き渡らせた。すると水が引き始めた。大水の源と天の水門が閉ざされ、天からの大雨がとどめられた」

「神は……覚えておられた」とは、神が忘れていたけれども思い出されたという意味ではなく、彼らのために行動し始められたという意味。ここで神が取られた行動は三つある。

①地の上に風を吹き渡らせた。…洪水前の温暖で均一な気候では強い風は一切吹かなかったであろうが地球を覆っていた巨大な水蒸気の層(大空の上にある水1:7)が大雨となって地に降り注いだ後は気候の差が熱帯地方と極地方にでき、気候が激変し、空気の大きな動きが始まった。これらはさらに地球の自転によって複雑になり、特に初期には激しかったことであろう。

②大水の源を閉ざされた。…地から湧き出る泉や川となって地を潤わせ、海に流れ込ませていた巨大な地下水の層を閉ざされた。

③天の水門を閉ざされ、天からの大雨をとどめられた。…①でも言及したがこれは大空の上にある水のこと。

このうち②と③は大洪水をもたらしたことによって、この時までには空(から)になったことであろう。以上のことを総合すると、地を覆っていた水にこの猛烈な風が吹くことにより、強い波と海流が生じたことであろう。しかし、風や波や太陽熱による蒸発だけでは水位の低下は少ししかなかったであろう。それゆえこの時、地球の地殻変動や火山活動がともない水に覆われていた地は隆起して新しい大陸となり、褶曲作用により山脈を形成し、海はその底を大きく深くし、陸地から流れ込む水を受け、取り込んだと思われる。→詩篇104:6～9 現在、地球の表面の約70パーセントは水で覆われており、陸地を削って海の中に入れ、地表を平らにならしたとすると水は地球全体を覆って約2,700メートルの深さになるという。創世記1:7の天地創造の時の大空の下にある水と大空の上にある水は今この海となって存在しているのである。

[3-5]「水は、しだいに地の上から引いていった。水は百五十日の終わりに減り始めた。箱舟は、第七の月の十七日にアララテの山地にとどまった。一方、水は第十の月まで減り続け、第十の月の一日に、山々の頂が現れた」

現在のトルコのアルメニア地方にある山脈の一つがアララテ山で高さは5,137メートルでありノアの箱舟が漂着したのがこの山地であったと思われる。この山にも海生生物の化石を含んだ堆積岩の層があり、かつては水面下であったものが大洪水がもたらした地殻変動や火山活動で隆起したと考えられる。それゆえ箱舟が漂着したときの山の高さは当時はもっと低かったであろう。

[6-12]「四十日の終わりに、ノアは自分の造った箱舟の窓を開き、鳥を放った。すると鳥は、水が地の上から乾くまで、出たり戻ったりした。またノアは、地の面から引いたかどうかを見ようと、鳩を彼のもとから放った。鳩は、その足を休める場所を見つけれなかったので、箱舟の彼のもとに帰ってきた。水が全地の面にあったからである。彼は手を伸ばして鳩を捕らえ、自分がいる箱舟に入れた。それからさらに七日待って、再び鳩を箱舟から放った。鳩は夕方になって、彼のもとに帰っ

てきた。すると見よ。取ったばかりのオリーブの若葉がそのくちばしにあるではないか。それで、ノアは水が地の上から引いたのを知った。さらにもう七日待って、彼は鳩を放った。鳩はもう彼のところに戻ってこなかった」

箱舟がアララテの山地に漂着し(第七の月の十七日)、さらに水が減り続け山々の頂が現れて(第十の月の一日)から四十日後(第十一月の月の十一日)、ノアは箱舟の窓を開けて鳥を放った。これは水がどこまで引いたか確かめるためであった。出たり戻ったりして遠くへ飛び去らなかつたところを見ると、箱舟の漂着した山岳地帯以外はまだ水没していたのであろう。その後、彼は同様に鳩を放った。しかし、まだ水は全地の面にあり、鳩は箱舟に帰ってきた(8~9)。これは鳥を放った七日後(第十一月の十八日)であったであろう。それからさらに七日後(第十一月の二十五日)再び鳩を放つ。夕方に帰ったその鳩のくちばしには取ったばかりのオリーブの若葉がくわえられていた。夕方に帰った所をみると、かなり遠方まで水は引いていたのであろう。しかもノアにまるで報告するようにオリーブの若葉をくわえて戻ってきたのである。オリーブは湿地には生えても高地には育たないので、遠くの低地もほとんど水が引き、種から芽ばえた若木が再び成長し始めたことを示している。オリーブは聖書に何度も登場するなじみの深い植物である。→詩篇52:8, 128:3, ルカ10:34, ローマ11:17, 黙示録11:4, 他

さらにもう七日待って(第十二月の二日)、鳩を放ったところ、鳩はもう戻ってこなかった。新しい世界が外に広がっていることを鳩が知らせているようである。鳩は今日では平和の象徴として知られ、主イエスが公生涯の始めヨルダン川でバプテスマのヨハネからバプテスマ(洗礼)を受けられた時、天が開けて神の御霊が鳩のようにご自分の上に降られた。(マタイ3:16)。

地上に人の悪が増大し、不信仰と暴虐が満ち満ちていた(6:5, 11)当時の世界は完全に神のさばきによって滅ぼされ新しい時代、新しい世界が始まったのである。

しかし、なおアダム以来の罪の問題の解決は、人となって来られる神の御子イエス・キリストの十字架による罪の贖いを待たなければならない。

今日でもノアの時代と同様に不信仰と人の悪が増大している時代であるが、主はノアの時代と同様に人々がその生き方を悔い改めて、ご自身のもとに帰って来るのを忍耐をもって待っておられる。私たちはノアの時代の世界を滅ぼした大洪水を教訓として、神を恐れ、神に従い、神を愛する良い生き方を世の人々に示し、主イエス・キリストの救いの福音を伝えていくことが大切である。→Ⅱペテロ3:3~9